

■荒井郁之助 幕臣として箱館戦争まで戦って敗れた後、明治政府の科学技術官僚として、後半生を全うした。

あらいくのすけ

・ ・ ・ ・ ・ 1836 = 湯島天神下上手代町の組屋敷で、幕府御家人の長男に生まれる。

大塩平八郎乱 1837 = 1歳 :

父や叔父の出世で次第に裕福になって行くなかに育つ。

順天堂始 1843 = 7歳 : 隣家の人に就いて素読を開始。

天保改革終 1844 = 8歳 : 父が永々御目見以上となり、浅草鳥越三味線堀へ転居。学問所勤番組の人に入門、

阿部正弘首座 1845 = 9歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1847 = 11歳 : 直新影流剣術に続き、弓道を学び、武芸は嬉々で行うも、暗記は嫌いで、やっと四書五経小学を終え、

・ ・ ・ ・ ・ 1848 = 12歳 : ようやく学問所の素読吟味に合格、お礼奉公に塾生の相手を務めた後、

北斎没 1849 = 13歳 : 昌平饗二階に入り、詩経を輪読。芸術御番入りのため1年早く元服。父が代官に昇進。

国定忠治疎 1850 = 14歳 : 書家に学ぶ。父が甲州代官として支配所に出たため、叔父のもとに寄宿、以後2人の叔父に養育される。

万次郎帰国 1852 = 16歳 : 「オランダ船舶新編」を写す。

ペリー来航 1853 = 17歳 : 父が大著「牧民金鑑」を完成。西洋流砲術に入門し、興味を抱く。

開国開港 1854 = 18歳 : 父が奥州桑折の幕府の10万石直轄領の代官に栄転、

安政大地震 1855 = 19歳 : <安政大地震>に罹災、貴重な体験をする。結婚し、御番入すなわち幕府の武官となる。箕作阮甫に入門して蘭学を学ぶ。叔父矢田堀景蔵が長崎の海軍伝習所に赴任。

藩書調所 1857 = 21歳 : 叔父矢田堀景蔵が教授方頭取となった築地の軍艦教授所出入りして、洋算学習。

五ヶ国条約 1858 = 22歳 : \*軍艦操練所世話心得に任命され、やがて教授方出役となり、

安政の大獄 1859 = 23歳 : 実地修業のため(朝陽丸)に乗り込み、ともに航海した勝海舟との関係が築かれる。

桜田門外変 1860 = 24歳 : 長男誕生するも、妻が死去。父が北関東支配の代官として江戸に戻る。幕府の使節団に参加した叔父成瀬

善四郎が土産として持ち帰ってくれた「米国海岸測量報告書」を読む。高等数学の勉強。軍艦操練所教授。

遣欧使節 1861 = 25歳 : 命を受け江戸湾を測量。再婚。(幡竜丸)船将心得から、(千秋丸)で小笠原へ航海、以後も船上生活が多く、

生麦事件 1862 = 26歳 : 麻疹が流行し、多くの書物も書いた父とともに長男が死去。家督を相続。勝海舟の後任として軍艦操練

所頭取となり、(順動丸)船将として江戸大坂を往復(将軍乗船)、

8月18日政変 1863 = 27歳 : (順動丸)で東西に奔走、将軍上洛の旗艦(翔鶴丸)船将を務めるなど、まさに提督として活動するが、

禁門の変 1864 = 28歳 : 前年誕生した次女が死去。突然、講武所取締就任の命を受け、海軍から陸軍に転じる。

薩摩藩士密航 1865 = 29歳 : 次男が誕生、跡取確保を喜ぶ。歩兵差込役頭取となり、仏国軍事伝習を受け、大鳥圭介と寝食を共に。

大政奉還 1867 = 31歳 : 歩兵頭並となり、初めて幕政に関与。直後、上司から(薩摩屋敷襲撃)の相談を受けて賛成、

明治維新 1868 = 32歳 : 再び海軍に転じ、軍艦頭となった直後(戊辰戦争)となり、海軍副総裁榎本武揚のもと、江戸湾を脱走。

戊辰戦争終 1869 = 33歳 : \*蝦夷での新天地をめざして、宮古湾海戦後、箱館に至るも降伏、入獄。榎本が獄中で活発に著作行い、荒

井も自然科学技術の学習・翻訳を行ううち、人材を確保したい黒田清隆の計らいが実って、

学問のすすめ 1872 = 36歳 : \*出獄、開拓使五等出仕となり、札幌農学校の前身として東京に開かれた仮学校に校長格として勤務。「英和

対訳辞書」刊行後、開校された女学校の校長も引き受ける。

明治6年政変 1873 = 37歳 : 仮学校閉鎖で、ケブロンのもと、ワッソン・デイと北海道三角測量に従事、力量が高く評価される。

佐賀の乱 1874 = 38歳 : 金星の日面通過の際、皇居での天覧観測にデイとともに説明役となる。

初の民間工場 1875 = 39歳 : 従五位。札幌在勤となる。

三つの反乱 1876 = 40歳 : ケブロン、デイらが帰国、測量も中止となる間、開拓使辞任。大鳥圭介とともに(中外工業新報)を企画、

西南戦争 1877 = 41歳 : 発刊。内務省に出仕し地理局測量課長となる。翻訳「測量新書」刊行。この年創立の東京数学会社会員。

大久保暗殺 1878 = 42歳 : 地理局地質課長を併任し、大三角測量計画・測候所設置を建議。

琉球処分 1879 = 43歳 : この年創立の東京地学協会の会員となり、以後活躍。文部省から翻訳「地理論略」刊行、「気象」などの専門

用語の訳に苦心したが好評で、(丸善)が翻刻出版、

・ ・ ・ ・ ・ 1880 = 44歳 : 地質課長解任。この年創立された世界最初の地震の学会・日本地震学会の会員。

明治14年政変 1881 = 45歳 : 新体詩抄 1882 = 46歳 : 東京地学協会で「測量術沿革考」を講演。気象事業でメートル法を採用に踏み切る。

岩倉具視没 1883 = 47歳 : 文部省からも再版となる。前年創立の東京気象学会会長に就任。(中外工業新報)廃刊。

秩父事件 1884 = 48歳 : 測量事業が全て陸軍省参謀本部へ移管となり、手を引く。東京地学協会で「日本の地学経度」を講演、日本標

準時制定に至る。

内閣発足 1885 = 49歳 : 地理局第四部長。

帝国大学始 1886 = 50歳 : 地理局次長。

国民之友始 1887 = 51歳 : 新潟県三条市で皆既日蝕観測に成功。

初の対等条約 1888 = 52歳 : 大日本気象学会幹事長。地理局気象課長。

帝国憲法発布 1889 = 53歳 :

帝国議会始 1890 = 54歳 : 初代の中央気象台長に就任後、

足尾鉞毒始 1891 = 55歳 : かつて測量課長を譲られた小林一知に、今度は自らが譲るべく、勇退。浦賀船渠建設を榎本に提案、以後

実現に向けて奔走、

郡司千島探検 1893 = 57歳 : 「鶴たより風船はなし」刊行。

日清戦争始 1894 = 58歳 : 従五位。

日清戦争終 1895 = 59歳 :

白馬会 1896 = 60歳 : (浦賀船渠株式会社)が実現し、監査役に就任。

八幡製鉄始 1897 = 61歳 : この年、勝・榎本・大鳥・栗原鋤雲ら旧幕臣らによる(旧幕府史談会)が組織され、雑誌(旧幕府)を発刊、

第三巻に「回天丸」を寄稿。

Bushidou 1899 = 63歳 :

教科書疑獄 1902 = 66歳 : \*(浦賀船渠)を退社し、以後隠棲。

日露戦争終 1905 = 69歳 : 糖尿病と闘い、

酒席を好まず、講演は訥弁で、戸籍には士族と書いてしかるべきところを平民と届け出、部下の立案には

「至極結構」と応じるなど、控えめな人生を通して、

アヲヲ創刊 1908 = 72歳 :

伊藤博文暗殺 1909 = 73歳 : 糖尿病がもとで没した。